

卒業論文

屋敷林がもたらす気象特性の解明 (Study of the weather characteristics due to Yashiki-rin)

指導教員 岡田 敏美 教授

富山県立大学工学部 電子情報工学科

学籍番号 9912301

氏名 和泉 良明

提出年月 2003年2月

表 3.3 : 不快指数の示す意味

不快指数[%]	人間が感じる感覚
68 ~ 70	もっとも快適
70 ~ 75	不快感を持つ人が出はじめる
75 ~ 80	半数以上の人が不快感を持つ
80 ~ 85	汗が出はじめる
85 ~	全ての人が我慢できない

式(1)を用いて屋敷林宅と近代住宅の不快指数を計算した。図 3.18-(a)と図 3.18-(b)に 2 軒の家の不快指数と室温の時間変化を示す。青色の折れ線は屋敷林宅の室温を示す。緑色の折れ線は近代住宅の室温を示す。紫色の棒グラフは屋敷林宅の不快指数を示す。水色の棒グラフは近代住宅の不快指数を示す。図 3.18-(a)は 1 日平均気温が 25 °C 以上の日の 2 軒の家の室内の不快指数を示す。図 3.18-(b)には 1 日の平均気温が 25 °C を下まわる時の不快指数を示す。このような区別をした理由は、気温が高い日では不快指数は 80 % 以上の値を示すこともあるが、気温が低い日では不快指数は 70 % 前後になり、全く記録される値の幅が異なるからである。異なる値の記録幅においても、1 日を通した不快指数の時間変化が同じになるかどうかを確認する必要があるからである。図 3.18-(a)に示すように、0 時～6 時までの時間帯と 18 時以降の時間帯では、2 軒の家の不快指数にほとんど差がない。一方 7 時～17 時までの 2 軒の家の室温差が増加してきている時間帯では、2 軒の家の不快指数の差も増加してきていることが確認できる。

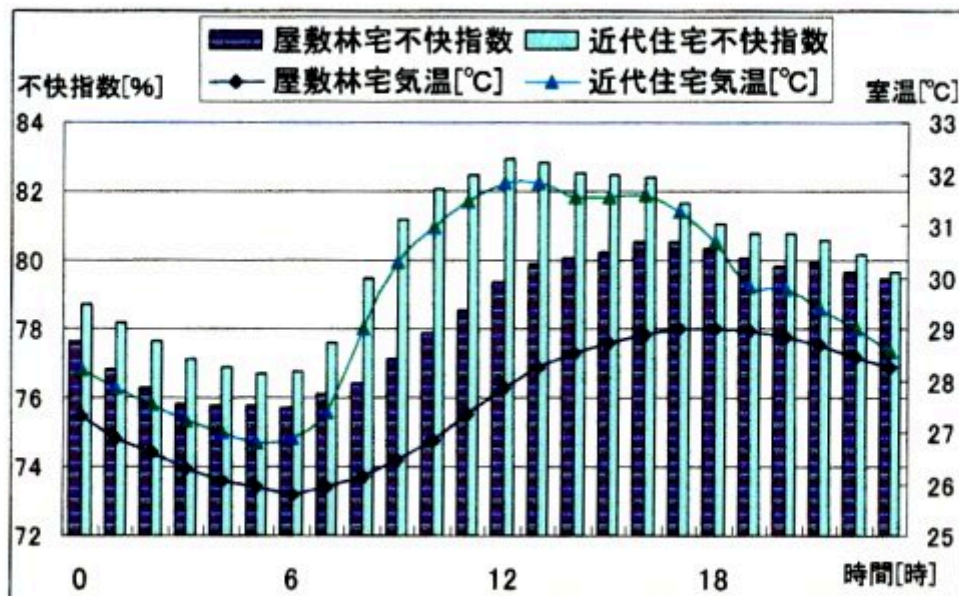


図 3.18-(a) : 2 軒の家の 25 °C 以上の日の不快指数と室温の時間変化